

(『むくげ通信』289号、2018年7月)

<「明治産業革命遺産」と強制労働>をテーマに長崎で集会が開かれた。2018年6月23日、会場は長崎県労務福祉会館、主催は強制動員真相究明ネットワーク(共同代表、庵途由香、飛田雄一)、翌24日にはフィールドワークも行われた。

講演は、①「「私たち」の歴史と明治産業遺産」(外村大)、②「明治日本の産業革命遺産と強制労働—10の視点」(竹内康人)のふたつ。

「各地域・現場における強制労働の実態」のテーマのもと、以下4本の報告があった。

①平野伸人「戦時下長崎における中国人・POW強制労働」、②新海智広「長崎の朝鮮人強制労働」、③城野俊行「三井三池関連からの報告」、④兼崎暉・裴東録「八幡製鉄所と強制労働」。講演、報告の詳細は資料集を参照していただきたい。真相究明ネットのホームページ <http://ksyc.jp/sinsou-net> からダウンロードすることができる。(印刷版が必要な方は、郵便振替<00930-9-297182 真相究明ネット>に600円を送金。送料真相究明ネット負担で送付。)



私は、前々日の6月21日に長崎に入った。神戸空港からスカイマーク便だ。早割でなんと往復9200円。私は最近にわか鉄ちゃんとなり青春18切符やジパングクラブを多用しているが、これではJRは太刀打ちできない。神戸空港建設に反対していたが、最近よく利用している・・・。



中華街湊公園、日本将棋をしていた／眼鏡橋

初日は、長崎新地中華街、高麗橋、眼鏡橋などを歩いて回った。この中華街、「新中華街」と勝手に思い込み、「旧中華街」探したがなかった。「新地」にある中華街のことだったのである。ホテルの人に变な質問をしてしまった。徒歩での観光は、距離感が徒歩的(?)とてもいい。一部、市電を利用した。神戸に市電があったころ、市電が好きだった。「花電車」もあったし、私はしなかったが・・・、5寸くぎを市電に引かせて一部を平らにし、南京錠の合鍵を作ったりした友人もいた。広島で元神戸市電をみて感激したこともあった。

翌22日は、レンタサイクルで走った。サイクリストの私も電動自転車だ。レンタサイクル屋さんが、「自転車は原則車道通行ですが長崎で車道を走ると事故ばかりとなります」とのこと、忠告にしたが

って歩道を走った。まずは平和公園に向かった。が、日差しを避けて川沿いの車の少なそうな道を走ったら平和公園をやり過ぎてしまい、市電の終点「赤迫」まで行ってしまった。

引き返し、平和公園、浦上天主堂、永井隆記念館、原爆資料館などなど。平和公園は集会後のフィールドワークで回るので少しかだけ回った。高校の修学旅行で来たときガイドさんが「平和像が男でも女でもない」と説明したので、我々男子クラスの面々がそれはないだろうとガイドさんをいじめたりしたような記憶もある。

あまりにも暑いので大型ショッピングモールで大休憩をとったのち、大浦天主堂、旧グラバー邸などを回った。ありきたりのコースだが、これまた修学旅行以来だ。そして出島に向かった。グラバー邸でガイドさんの話を盗み聞きすると、福山雅治さんのご実家が××で、彼は母親のためにタワーマンションの最上階を買ったが、母親は実家の方がいいとまだ実家に住んでいるとのこと。長崎の有名人は、さだまさしだと思っていたが、違ったようだ。



出島は良かった。前日、東横インホテルのすぐ近くにあるので覗いてみたが、入ろうとした入口がタ方で閉まっていた。正

面入り口をさがすが分からなかった。私の出島は、島のはずだがぜんぜん島ではないのである。この日は、自転車なのでぐるぐる回って正面入り口を発見した。復元作業が進められており、一見の価値がある。羽ペンの展示実演もあった。ペン習字ののち、「あげます」というので羽ペンをくれるのかと思ったら、自分が書いたものをくれた(写真)。羽でバトミントンの羽を作るというコーナーもあったが残念ながら時間がなかった。

出島を出るとき武士姿のガイドさんがいろいろ教えてくれた。出島正面入り口の前には現在20メートルほどの川があるが、昔は5メートルほどの川だったとのこと、また現在は出島の周りはすべて埋め立てられていて、陸の一部になっているが、前の川も含めて明治期に川の拡張、道路のために出島の一部を接収(?)されたりして、江戸時代の出島の方が少し大きかったとのことだ。



集会風景／裴東録さんと

23日は集会当日。会場の勤労福祉会館あたりは徒歩と自転車でうろうろしたところなので最短コースを歩いていった。市電が市役所の下の特設トンネルを通っていたりして結構複雑なのである。私は司会担当、タイムキーパーの中田光信事務局長とのコンビで会を進め、現地の参加者から「よくまあうまく時間通りに終わりましたね」と褒められて気分を良くして懇親会会場に向かった。そして懇親会の2次会など。

24日はフィールドワークで、午前9時に岡まさはる記念館に集合した。岡まさはるさんは生前学生センターの朝鮮史セミナーかキリスト教セミナーでいただいていたことがある。右翼の攻撃をものともせず元気潑刺の、こんな牧師さんもいるのかとびっくりしたことを覚えている。



岡まさはる記念館／三菱魚雷実物／トンネル前記念写真

記念館見学のもの、市電でフィールドワークに出発した。自転車でまちがっていった終点・赤迫のすぐ近くに「三菱兵器住吉トンネル工場跡」があった。爆心地から2.3キロ、現在は商業施設や住宅街が広がる住吉町と赤迫町の間部の山腹にそれがある。300Mのトンネルが6本もある。1944年から45年にかけて米空軍・B29爆撃機などの激しい空襲をさけて安全に航空用の魚雷生産をするために作られた地下工場の跡である。予想以上に大規模なものだった。2007年に長崎市が市民団体の保存要請を受けて1、2号トンネルの入り口を保存し看板も設置している。少しでも中にはいることができる。

建設工事には多くの朝鮮人も動員された。2010年3月30日の一般公開のときにここを訪れた金鍾基さん(82歳)は、以下のように語っている。

「1945年2月、出身地の韓国・忠清南道の村落を通行中、日本の官憲から捕縛され、多数の若者と共に広場に集められました。そして、家族に別れを告げることもなくトラックに乗せられ、釜山から石炭船に詰め込まれて日本へと連行されました。・・・1日8～10時間、二交代または三交代制で昼夜の区別なく、トンネル掘りと土石の運搬をさせられました。・・・工事監督からは始終怒鳴られ、不満一つ出せず、家畜のように従うだけでした」

長崎ちゃんぽんの昼食のもの、再び市電で平和公園に移動した。まずは、朝鮮人被爆者追悼碑だ。先の岡まさはるさんらのグループが1979年に建立したものだ。裏面には「強制連行および徴用で重労働に従事中被爆死した朝鮮人とその家族のために」とある。毎年8月9日の早朝に追悼集会が開かれてい

るとのこと、早朝にするには、他の行事にもその後参加できるように配慮しているのだ。一度、参加してみたい。

護岸工事現場より出土した壁には、熱線のあとがのこされており、保存運動によってその一部が保存されていると説明があった。また、移築された灯籠で、原爆側と反対側で石の融解状況が一目瞭然という聖徳寺の灯籠も移築展示されていた。



朝鮮人被爆者追悼碑／防空壕跡

平和公園のエスカレータ乗り場付近には防空壕の跡が今も残されている。エスカレータにのり、「中国人原爆被害者追悼碑」、公園内そのものにあった浦上刑務所跡を見学した。発掘作業であらわれたレンガ等がそのまま残されている。まさに平和公園はこの刑務所跡につくられたと言えるものだ。



刑務所跡の説明版／巨大な刑務所の土台

刑務所跡の土台部分が現在も残されており、刑務所の大きさ威圧感を示すものだが、なぜか柵と南京錠があり、回り込むことができるが普通に見学できないようになっていた。

ちょうどこの時期に長崎のキリシタン遺跡が世界遺産に認定されるということで、マスコミにも大きく取り上げられた。私もクリスチャンのはしくれとして、興味をもっている。浦上天主堂では隠れキリシタンが禁がとけたのち日本を訪ねた神父に、「実は私たちは信仰を同じくする信徒です」と名乗ったエピソードに感動したりもした。だが、世界遺産はそのような正の面だけではない、負の意味も考えなければならない。今回の真相究明ネット長崎集会のテーマが軍艦島に象徴される「明治産業革命遺産」が富国強兵、植民地支配、アジア侵略へとつながることを考えることが必要である。(了)



最後の日、稲佐山に登った。日本「新」三大夜景とのこと。天気がもうひとつだったので、これは、夜景パネル前での自撮り写真。